

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境			0.31					3.1
1 音環境		2.6	0.15	-	-	-	-	2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	-	-	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	-	-	3.1
2.1 室温制御		4.0	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能	窓システム:0.4(熱線吸収+ブラインド)、外壁U:1.200(W/m2K)	4.0	0.25	3.0	-	-	-	
4 ゾーン別制御性	個別空調の全面採用により室毎の必要に応じた空調設定が可能	5.0	0.38	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	-	-	
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-	-	-	3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率	昼光率 2.5%以上	5.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	-	-	
4 空気質環境		3.2	0.25	-	-	-	-	3.2
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	-	-	
1 換気量	全熱交換器により、建築基準法第28条の約1.5倍(平均)の換気量を確保	5.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	2.9
1 機能性		2.3	0.40	-	-	-	-	2.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	3.0	-	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観	居室の天井高2.7mを標準とし、大型の窓の採用により景観を向上	4.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31	-	-	-	-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	空調ドレンや排水管に塩ビ管を採用し、耐用年数の向上を図った	4.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.2	0.19	-	-	
	2	給排水・衛生設備	手洗い水洗への節水コマ、センサー型小便器や節水型便器の採用	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.8	0.29	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	平均階高4.2mを採用した	4.6	0.31	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.16を確保した	5.0	0.60	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40	3.0	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性	大型のPSの採用と、1.5mの天井スペース確保により更新性を向上	3.8	0.38	-	-	
	2	給排水管の更新性		4.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.17	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性	室外機PHに集中設置し更新性を高めた。個別空調で建物機能を維持	3.0	0.11	-	-	
	6	バックアップスペース	バックアップスペースも、現状機器専有面積と同スペースを確保	5.0	0.22	-	-	
				4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制			事務棟の東面にのみ窓を配置、工場棟は無窓とし、日射負荷を低減	4.4	0.04	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			調光機能付LED照明や高効率型空冷ヒートポンプパッケージの採用	5.0	0.41	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=59.5%	5.0		-	-	
	集合住宅の評価			3.0		-	-	
4 効率的運用				3.0	0.27	-	-	3.0
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水		手洗い水洗への節水コマ、センサー型小便器や節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		LGS下地を採用、躯体と仕上げ材の分離解体が安易に可能	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.3	0.22	-	-	2.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			2.0	0.68	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	-	-	-	
3	冷媒			2.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			LED照明の採用など、運用面での改善によりライフサイクルCO2を削減	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		十分な駐車スペースと、管理用車両と物流車両との動線を個別確保。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	-	
2	振動			-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	